==========
横浜市立盲学校　高等部　普通科　松田　基章（松田基章）
学校住所：横浜市神奈川区松見町1－26
学校電話：(045) 321－5011
横浜市立盲学校ＨＰ：http://www.edu.city.yokohama.jp/ss/yokomou/
Eメール　akira@netpro.ne.jp
個人 phs:070-6119-9932　こちらへご連絡下さい。
==========

① タイトル

情報指導初期導入としての試行

② サブタイトル

図書指導と文字変換指導を考える-

③ 校種・教科・学年

特殊教育：盲学校　自立活動（情報）高等部1年
実践者　横浜市立盲学校　高等部　普通科　松田基章

④ コンピュータ活用のアイデア

情報指導の初期導入としては、通常キーボード練習やワープロ指導から始まるのが一般的である。昨年、思い切って、他校とのチャットやメールを初期導入として始めた。新鮮味のある他県や海外の交流相手との交流を通じて、キーボード入力や文字入力（漢字変換）等の指導も同時に行った。また、図書館の協力を得て図書資料・機器の紹介や読書促進指導を付加した。

「メリット」

6点入力に慣れている全盲の生徒は、通常、校内の仲間同士では、点字だけで十分生活が成り立ち、漢字の変換や、勉強はおろそかになりがちである。情報の授業で、漢字入力・文章作成というと、まず、日本語ワープロプロセッサの指導等であった。他校と交流することで、当然、高校生の交流となると、漢字混じりの文が常識となる。楽しみながら、自然と日常漢字を覚えることにつながったと思われる。また、学校図書館の資料や使い方を知り、Web検索で情報を得られることも体験させた。

⑤ 単元・項目

⑥ 対応する学習指導要領の内容

盲学校学習指導要領　自立活動
1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
5）状況に応じたコミュニケーションに関すること。
普通教科「情報」：情報通信ネットワークなどが社会の中で果たしている役割や影響を理解などを配慮し授業に取り入れた。

⑦指導目標

①楽しみながら、自力でキー入力ならびに文字変換の定着を図る。
②図書館読書資料等の利用方法を知り、取り出し・活用方法を知る。
③読書支援システムを通じて墨字分を音声で読む方法を知る。

⑧コンピュータ活用のねらい

視碍者の立場での情報ネットワークの利活用を想定し、情報のディジタル化や情報通信ネットワークの特性を利用しながら、日常的に必要な、ネットワークが機能する仕組みとそのために必要な要素について学ぶ。

情報の社会に及ぼす影響やネットワークに参加する上での、利用上のマナー・個人情報（パスワード等）の管理の重要性について認識させる。

⑨実践のポイント

●キー入力

盲学校の大半の全盲の学生は6点点字入力です。したがって、インターネットなどにアクセスする際に、キーを切り替えローマ字入力等に変えます。また、その特性から、通常、キー入力ができないと、何もできないことになります。今までは、集中的にフルキーボード練習を別途まとめてとってきました。視障者のパソコン活用の場合、まず、入力インターファイスの確立が重要です。今年、耳で覚えるキーボード「うちこみクン」の導入で、それまでのキー入力を教え込むといった方法が変わりました。楽しみながらキー入力が自分自身で覚えられるようになりました。またゲーム等を取り入れる工夫も重要です。
うちこみクンHP：http://www.sccj.com/e-oto/uchikomi/
視障者に役立つソフト：http://www.ab.aeonnet.ne.jp/~voicenet/soft.htm

発信する前に「先生チェックして・・」「これでいいのかな？」という言葉がが教室中飛び交いましたが、生徒はどんどん操作法や漢字変換を覚えていきます。漢字にずいぶん興味を持ってくれたようです。
視覚障害者とバリアフリー社会：http://www.planet.ne.jp/sunao/

●漢字入力・文章作成

漢字入力・文章作成というと、まず日本語ワープロプロセッサの指導等を思い浮かべると思います。昨年、思い切って、他校とのチャットやメールを初期導入として始めました。チャットやメール等で他校と交流することで、当然、高校生の交流となると、漢字混じりの文が常識となります。校内の仲間同士では、

点字だけで十分で、漢字の変換や、勉強はおろそかになりがちです。まだ、漢字変換が十分できない生徒も、やってみたいというのでやらせてみました。発信する前に「先生チェックして・・」「これでいいのかな？」という言葉がが教室中飛び交いましたが、生徒はどんどん操作法や漢字変換を覚えていきます。漢字にずいぶん興味を持ってくれたようです。

また、メール使用で、音声によって漢字変換することにより、勉強とは感じないで、自然と日常漢字を覚えることにつながったと思います。

●図書指導

視障者の図書情報・書籍は、極めて少なく、ディジタルのＴＸＴ文やインターネットも情報革命ともいえる重要な情報源です。

ボランティアさんが点訳した図書も最近はほとんどが点訳本とともに、ディジタルの情報で届けられます。したがってこれらを再利用することは重要です。また、インターネットを通じての、音声での新聞情報、ラジオ情報ならびに音声図書館などの入手も重要な情報源になります。そして今年２月からインターネットで「盲学校点字情報ネットワーク」が公開されるようになりました。これらも十分利用していこうと思っています。

横浜市立盲学校図書館研究ページ：http://www.netpro.ne.jp/~watoson/tosyo/

●読書支援システムの利用

通常、点訳は、2 から 3 ヶ月かかります。読書支援システムを利用すると、スキャナを使って瞬時に情報の概要を把握できます。通産省の事業で、タウ技研と横浜市立盲学校で実証実験を行ってきた「よもとも 2000」は、簡単なジャケットやパンフレットも即座に読むこともテキストに落とすことも可能です。

よみとも 2000：http://www.tau.co.jp/yomitomo.htm

(10) 子供たちの反応

障害のある学校の生徒は、自ら自立できることが大切です。自力で他との交流、出かけないでその場にいながらにしての情報交換・交流は生きる力に直結する。

横浜市立盲学校では、99 年に全校ネットワークを構築して以来、コンピュータ室や学習室、図書館のパソコンだけでなく、教室に設置されたパソコンは、インターネットに接続され、いつでも、生徒や児童に開放している。したがって、生徒たちも、朝から夕方まで、ニュースや新聞記事をパソコンで読み上げ、必要に応じてＦＤに保存したり、点字プリンタに打ち出したりしている。

また、新聞や雑誌を読めない盲学校の生徒にとって、インターネットを通じての情報収集は、大切な情報源となっている。

参考記事：ITと教育　教育に生きる IT 横浜市立盲学校

http://www.mainichi.co.jp/universalon/report/200103/03.html